

第1章 高鍋町の地域特性

1. 本町の位置と地勢等

○地理・地勢・地形・地質

本町は、宮崎県のほぼ中央部の沿岸地帯にあり、東経 131 度 26 分～32 分・北緯 32 度 5 分～10 分に位置し、北は川南町、西は西都市・木城町、南は新富町と接している。町域は、東西約 10 キロメートル、南北約 6 キロメートル、面積 43.80 平方キロメートルで、宮崎県内の自治体としては、最も面積が小さい町となっている。

地勢は、北、西及び南部の周辺部が標高約 50m～70m の段丘状のほぼ平坦な台地となっており、この台地に囲まれるように小丸川、宮田川の下流部に平野が広がっている。

地形は、段丘状のほぼ平坦な高台が北、西及び南の三方から中央に位置する平野部を囲む形となっており、町のやや北部寄りにある一級河川小丸川及び南部寄りの宮田川が日向灘へ注いでいる。中央部の平地は、小丸川の沖積によって形成された低地で極めて緩やかな東傾斜面であるため、市街地の自然排水が困難であるという、県内の他市町村には見られない特徴を持っている。

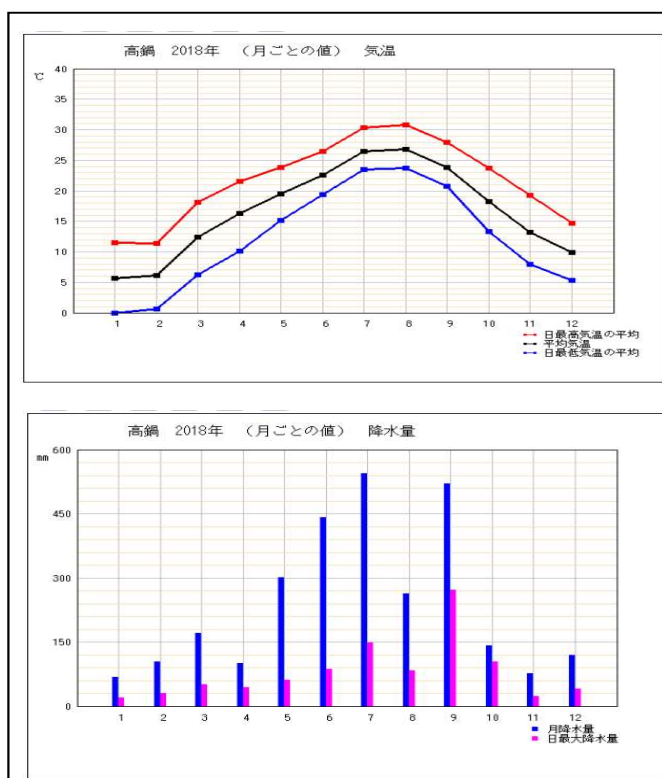
地質は、ほとんどが第四紀層で占められており、部分的に新第三紀層が見られる。丘陵部及び台地部では、新第三紀宮崎層群がみられ、泥岩層、砂質泥岩及び砂岩泥岩互層及び砂岩層が堆積し、その上部を小丸川層及び通山浜層が不整合に覆っている。さらにその上部を三財原段丘堆積物、新田原段丘堆積物等が覆い、洪積台地を形成している。河川流域及び海岸沿いの沖積低地では、沖積層の礫・砂・泥から成っており、網目状に旧河川道堆積物が分布し、沖積平野を形成している。

○気象概況

気候は、南日本の温暖なモンスーン気候帯に属し、年平均気温は 16.7℃と温暖な地域である。月平均気温では、1 月が 6℃前後と最も低く、7、8 月が 27℃前後と最も高くなる。

降水量は、年間平均 2,850mm と日本でも多雨地域にあたり、月間降水量は 6 月～9 月頃が多く、梅雨時期の 7 月に 500mm 超となっており、次いで 9 月の台風期に 500mm 程度と集中する。これらの時期には、本町でも過去に台風や集中豪雨等による河川氾濫をはじめ、家屋や田畑が浸水被害等を受けている。

風速は、その年に発生した台風に影響されるが、年平均風速はおよそ 1.5 m/s 程度である。風向は、年間を通じて西の風が最も多く、次いで北東の風が多い。



高鍋 2018年(月ごとの値) 主要要素

月	降水量(mm)				気温(℃)					風向・風速(m/s)					日照 時間 (h)	雪(cm)		
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	平均 風速	最大風速		最大瞬間風速			降雪の 合計	日降雪の 最大	最深 積雪
			1時間	10分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向	風速	風向				
1	67.5	19.5	8.5	2.0	5.7	11.5	0.0	20.1	-6.1	1.6	8.3	西北西	16.8	北西	202.6	///	///	///
2	104.5	30.5	13.0	3.5	6.1	11.4	0.6	16.4	-7.3	1.6	9.0	西北西	16.4	西北西	180.1	///	///	///
3	171.0	50.5	20.5	6.5	12.4	18.1	6.2	24.0	-1.2	1.7	10.2	西北西	18.9	西北西	209.1	///	///	///
4	100.0	44.0	11.0	4.0	16.3	21.6	10.1	25.6	0.0	1.7	7.5	西北西	14.8	北西	231.7	///	///	///
5	301.5	61.5	18.5	7.0	19.5	23.8	15.2	31.6	6.3	1.5	7.8	西北西	14.4	西北西	168.8	///	///	///
6	442.0	86.0	22.0	9.0	22.6	26.4	19.4	32.9	13.5	1.3	5.0	南東	13.3	南	138.4	///	///	///
7	544.0	148.0	35.0	15.0	26.4	30.3	23.5	35.0	20.9	1.6	7.9	南東	17.4	南南東	190.0	///	///	///
8	262.5	83.0	31.5	12.0	26.8	30.8	23.7	34.1	19.7	1.6	6.2	南南東	15.7	東	212.2	///	///	///
9	520.0	272.0	96.0	17.5	23.8	28.0	20.7	32.4	15.0	1.4	13.5	北西	30.8	西北西	119.3	///	///	///
10	142.0	103.0	24.5	9.5	18.2	23.7	13.3	28.6	6.8	1.6	7.1	南東	19.1	東南東	208.7	///	///	///
11	76.5	22.5	4.5	1.5	13.2	19.2	7.9	25.4	1.8	1.2	6.4	西北西	10.6	西	190.9	///	///	///
12	118.5	41.0	13.0	5.5	9.9	14.7	5.3	24.2	-3.8	1.2	6.3	西北西	12.8	西北西	125.6	///	///	///

年間平均気温:16.7℃ 年間降水量:2,850mm

資料:気象庁ホームページ

○人 口

本町の人口は、昭和60年(1985年)の23,239人をピークに徐々に減少し、平成31年(2019年)は、20,250人となっている。

令和2年3月に改訂した「高鍋町人口ビジョン」では、人口減少対策に必要な様々な施策を講じることにより、令和42年(2060年)には15,267人となる将来展望が示されている。

■第2期人口の将来展望(年齢3区分人口及び割合)■



資料:令和2年3月改定「高鍋人口ビジョン(改訂版)」より

2. 過去の災害と想定される災害

本計画において、本町の特性や過去の災害の発生状況等を踏まえ、町民生活・地域社会に影響を及ぼすリスクとして、本町において最も発生頻度が高く、全国的にも甚大な被害をもたらしている「大雨による浸水・土砂災害」、近年、温暖化等により大型化・強力化する「台風による風水害及び高潮災害」、さらには、今後発生が懸念される「南海トラフ巨大地震」などの大規模自然災害を想定している。

(1) 過去の災害

○平成17年台風14号による被害

平成17年9月4日～9月6日にかけて本県に接近した台風14号では、3日夜から4日早朝にかけて雨が降り出し、6日まで降り続き、高鍋町では3日間の総雨量が483mmにも及んだ。また、小丸川の上流部にあたる南郷村神門では、総雨量が1,321mmにも及んだ。

この大雨による影響で、小丸川の水位が上昇し小丸大橋水位観測所で氾濫危険水位(5.50m)をはるかに超える6.09mにまで及んだ。このため、小丸川に設置された各樋管の閉鎖が余儀なくされ、内水被害が発生した。特に宮越樋管と中州樋管にかかる排水が不能となり、県道木城高鍋線を越流し宮田川方面へ流れ込み、多大な浸水被害等が発生した。

この台風によって、負傷者2人、避難者3,149人、床上浸水33世帯、床下浸水163世帯、道路損壊、その他商工農林水産業に多くの被害が出た。

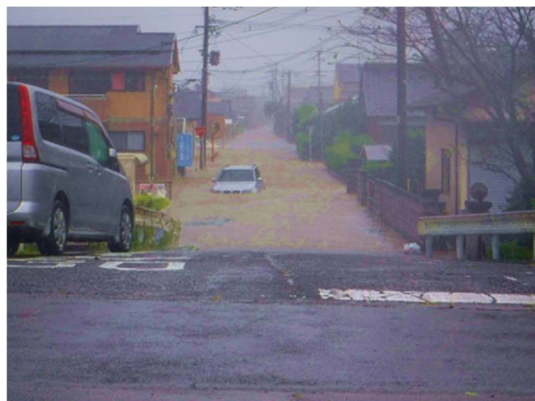


○平成30年台風24号による被害

平成30年9月30日～10月1日にかけて本県に接近した台風24号では、29日の夜から30日の昼にかけて強い雨雲がかかり、1～3時間の短時間に記録的な豪雨を記録し、小丸川上流部での大雨により小丸川の水位が上昇し小丸大橋水位観測所で氾濫危険水位(5.50m)を超える6.53mにまで及んだ。このため、小丸川に設置された各樋管の閉鎖が余儀なくされ、内水被害が発生した。また、市街地西部に降った雨は、市街地付近を流れる塩田川の堤防を越流、市街地へ流れ込み多大な浸水被害が発生した。

暴風による倒木被害も多数発生し、国道や県道・町道の封鎖が 55 路線にも及び、県道 1 路線と町道 2 路線は、年度を越えて通行止めとなった。

この台風によって、住家被害が全半壊・一部損壊が 20 棟、床上浸水 13 世帯、床下浸水 59 世帯、その他公共公益施設や商工農林水産業に多くの被害が出た。



(2) 想定される災害

①地震

本町はユーラシアプレート上に位置し、大きな地震が十数年から数十年間隔で発生するという地震活動が活発な地域に含まれている。日向灘地震は、今後 30 年以内にマグニチュード 7.6 前後の地震が 10% 程度、マグニチュード 7.1 前後の地震が 70～80% の確率で発生するとされており、本町に大きな被害を及ぼす可能性がある。

さらに、駿河湾から日向灘まで伸びる南海トラフでは、歴史上たびたび大きな地震が発生しており、科学的に考えられる最大クラス（マグニチュード 9）の地震である「南海トラフ巨大地震」が発生した場合、甚大な被害が想定される。

②風水害

台風はほぼ毎年のように接近・通過しており、前述したとおり本町で一番頻度の高いのが台風被害である。近年地球温暖化の影響等により、雨の降り方が局地化、集中化、激甚化しており、町内でもこれまでにない浸水や土砂災害等の発生が懸念される。

○浸水被害

本町の中央部の平地は、一級河川小丸川とその支流宮田川に挟まれており、上流域での大雨により河川が増水すると、平地部に降った雨水は排水できなくなり、浸水被害が度々発生している。今後も、大雨のたびに被害が発生する可能性が高く早急な対策が必要となっている。

○土砂災害

本町には土砂災害危険区域等の指定箇所が 32 箇所あり、県・町の事業により崩壊

対策事業も進められているが、降雨期や台風により小規模ながら土砂災害が発生することがある。

③大規模火災

平成２８年に新潟県糸魚川市で発生した大規模火災は、対岸の火事などではなく、気象条件や出火場所によっては、本町においても大規模火災の発生が十分考えられる。本町の市街地部には、準防火地域の指定地域もあり防火対策も必要である。